

令和5年度第1回碧南市地域公共交通活性化協議会

日時 令和5年7月19日（水）

午後2時から午後4時まで

場所 碧南市役所7階 議員大会議室

1 会長あいさつ

2 概要説明

3 議題

(1) 令和4年度収支決算について

資料1

(2) 令和5年度当初予算（案）について

資料2

(3) 第6章 碧南市地域公共交通計画について

資料3

(4) 令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について

資料4

4 その他

- ・次回開催予定 令和5年11月6日（月）午後2時から
碧南市役所7階 議員大会議室にて

令和4年度碧南市地域公共交通活性化協議会収支決算

収入の部

科目	予算額	決算額	増減額	摘要
負担金	7,920,300	7,920,300	0	碧南市負担金
補助金	0	990,125	990,125	
雑収入	0	62	62	預金利息
合計	7,920,300	8,910,487	990,187	

支出の部

科目	予算額	決算額	増減額	摘要
1 会議費	726,300	278,094	▲448,206	
(1)報償費	717,500	274,000	▲443,500	委員謝礼
(2)会議賄	8,800	4,094	▲4,706	
2 事業費	7,194,000	6,646,678	▲547,322	
(1)委託費	7,194,000	6,646,678	▲547,322	策定委託費 6,336,000 協議会印鑑代 2,112 アンケート郵便料 308,566
合計	7,920,300	6,924,772	▲995,528	

収入総額 8,910,487


支出総額 6,924,772


次年度繰越額 1,985,715

監査結果報告書

令和4年度碧南市地域公共交通活性化協議会の会計監査を実施したところ、適正に執行されていることを認めます。

令和5年7月11日

監事 小田道樹 

監事 鈴木いかり 

令和5年度碧南市地域公共交通活性化協議会当初予算（案）

収入の部

科目	本年度予算 額	前年度予算 額	増減額	摘要
負担金	1,550,621	7,920,300	▲6,369,679	碧南市負担金
雑収入	0	0	0	預金利息
繰越金	1,985,715	0	1,985,715	
合計	3,536,336	7,920,300	▲4,383,964	

支出の部

科目	本年度予算 額	前年度予算 額	増減額	摘要
1 会議費	346,336	726,300	▲379,964	
(1)報償費	340,000	717,500	▲377,500	委員謝礼
(2)会議賄	6,336	8,800	▲2,464	
2 事業費	3,190,000	7,194,000	▲4,004,000	
(1)委託費	3,190,000	7,194,000	▲4,004,000	策定委託費
合計	3,536,336	7,920,300	▲4,283,964	

※科目間の流用を認めるものとする。

第6章 碧南市地域公共交通計画

1) 計画対象地域及び計画期間

(1) 計画対象地域

本計画は、本市内を運行する公共交通全体を一体的に取り扱うことから、対象地域を碧南市全体とします。

なお、周辺市町との公共交通相互の連携等にあたっては、個別に協議・調整を図ることとします。

(2) 計画期間

本計画の期間は、令和6年度～令和10年度までの5年間とします。

なお、計画期間内であっても、社会情勢の変化への対応や、公共交通の運行・利用に関する安全性に配慮した見直しについては、必要に応じて見直しを図ります。

2) 地域公共交通の基本的な方針

第6次碧南市総合計画では、まちづくりの基本理念を市民憲章の理念としており、地域公共交通では市民憲章の理念のうち「安心して住める町に」や、「活気ある町に」に貢献できるものと考えます。

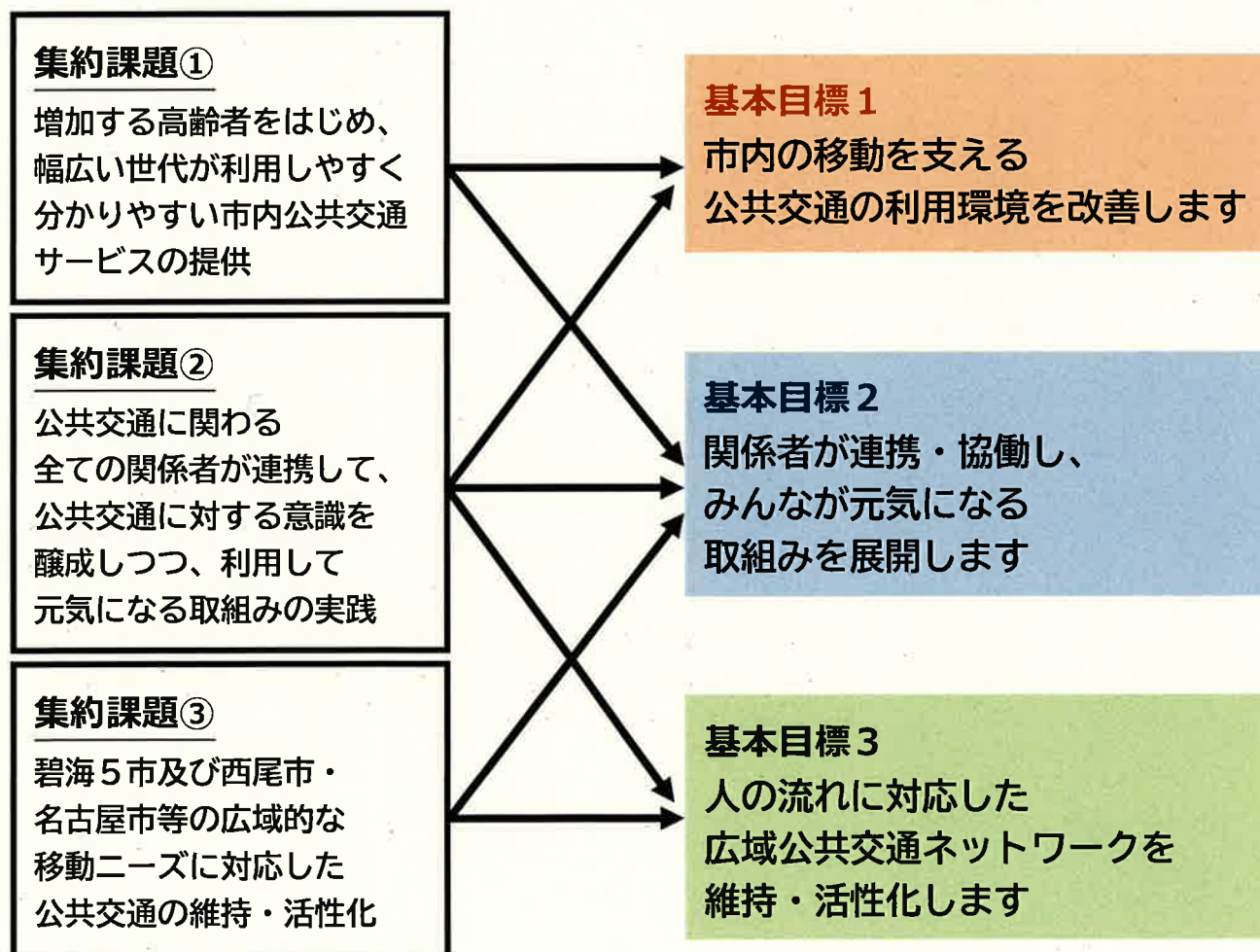
また、市民をはじめとした本市に関連する人たちが利用しやすく、元気を保つことができる公共交通ネットワークを形成し、地域公共交通に関連する全ての関係者が連携・協働した、「みんなが使う公共交通で支える 活気あるまち へきなん」を地域公共交通の基本的な方針と定めます。

<地域公共交通の基本的な方針>

みんなが使う公共交通で支える 活気あるまち へきなん

▼集約課題

▼基本目標



3) 地域公共交通の役割と位置付け

本市は鉄道駅を4駅有しており、鉄道が高浜市や刈谷市、知立市方向の広域的な移動手段として機能しています。また、中心市街地や碧南駅からは名鉄三河線の廃止区間代替バスであるふれんどバスが運行され、西尾市への移動手段となっています。

碧南市が運行するくるくるバスは、中心部では周縁部よりも頻度の高い運行となっていますが、どちらも市民の市内生活移動に対応しています。

また、市内ではタクシーが営業しており、上記公共交通を補完する役割を担っています。

このように本市で運行されている公共交通は、広域的な移動を支えるものから段階的なネットワークを形成するものとしします。

図 地域公共交通の
将来ネットワークイメージ

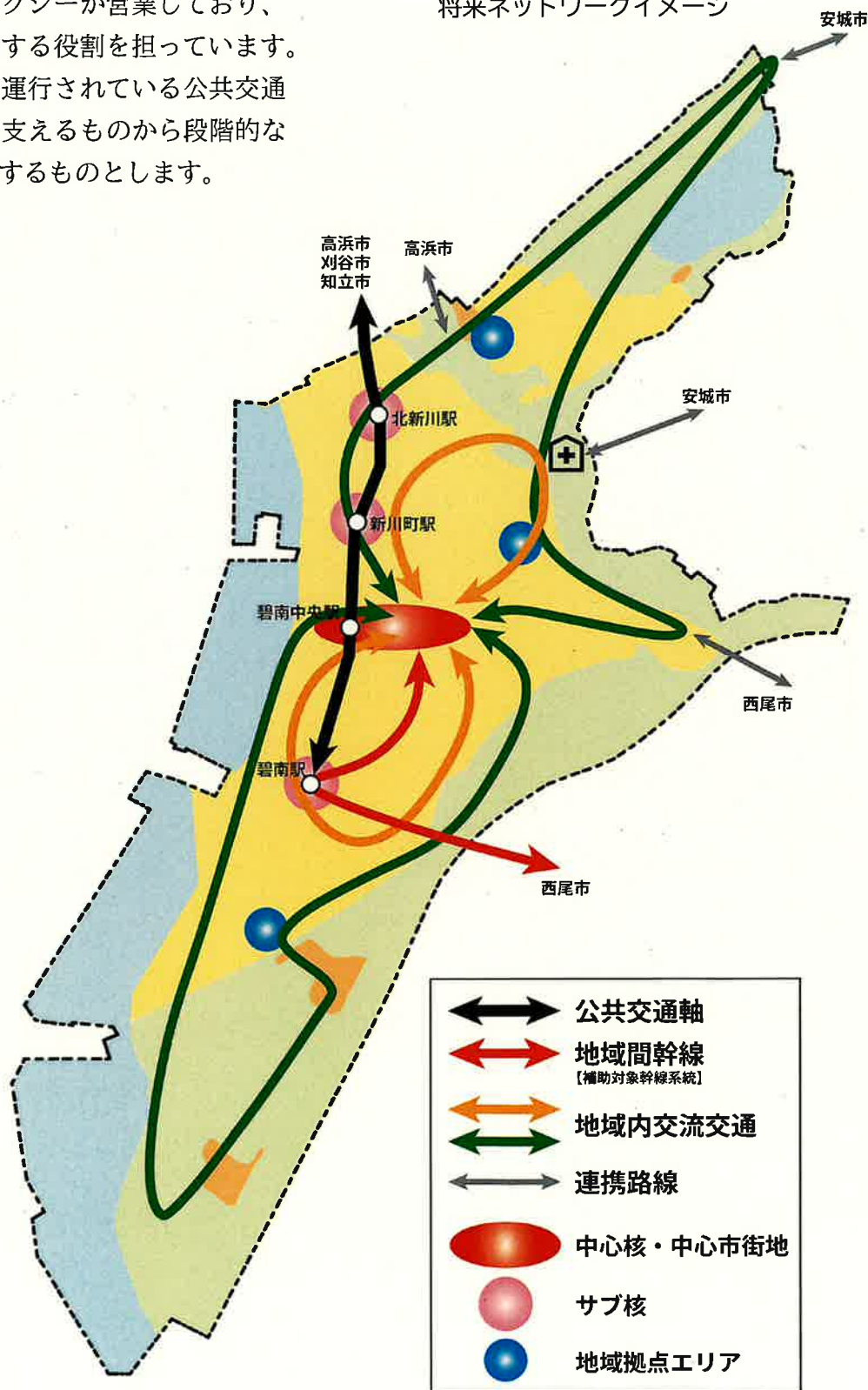


表 碧南市における地域公共交通の役割と位置付け

位置付け	該当する路線・系統	役割	確保・維持の方法
公共交通軸	名鉄三河線	<ul style="list-style-type: none"> ● 通勤・通学を主体としつつ、買物や観光など様々な移動目的に対応する路線 ● 広域的な移動需要に対応する 	交通事業者と協力した取組みにより一定以上の需要や運行水準を確保する
地域間幹線	ふれんどバス ①・②系統	<ul style="list-style-type: none"> ● 碧南高校をはじめとした沿線に立地する高校への通学を主体としつつ、通勤や買物など様々な移動目的に対応する路線 ● 鉄道駅や本市中心部などの交通結節点において、他の移動手段と連絡する 	利用促進事業による運賃収入の確保や沿線市からの運行費補助に加え、地域公共交通確保維持事業（幹線補助）を活用し、持続可能な運行を目指す
	ふれんどバス その他の系統		利用促進事業による運賃収入の確保や沿線市からの運行費補助により、持続可能な運行を目指す
地域内 交流交通	くるくるバス	<ul style="list-style-type: none"> ● 買物や通院目的を主体とした移動目的に対応する路線 ● 利用可能な範囲で通勤・通学目的での利用にも対応する ● 市内の生活移動に対応する 	本市が主体的に運行する路線で、利用促進の取組みを進め、効率性を高めることにより、持続可能な運行を目指す
連携路線	あんくるバス 六万石くるりんバス いきいき号	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市と周辺市を結ぶ路線 ● 本市内の公共交通と連携する 	(周辺市が運行する路線であるため、本計画での取組の直接の対象としませんが、必要に応じ連携・調整を図ります)
個別輸送	一般タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記の公共交通では時空間的に対応できないニーズに対応 	交通事業者と連携した取組みにより、一定以上の需要や運行水準を確保する

■地域公共交通確保維持事業の必要性と補助系統に係る事業及び実施主体の概要

【ふれんどバス①・②系統について】

ふれんどバス①・②系統（赤系統）は、本市の中心核・中心市街地やサブ核と、西尾市の交通結節点（一色町公民館・吉良吉田駅等）を連絡しており、沿線に立地する碧南高校・一色高校・吉良高校への通学目的が利用の主体を占めています。また、鉄道と連絡する性質があることから、より広域な通勤・通学目的や観光目的での利用にも対応していると同時に、休日では市域を超えた買物目的での利用もみられます。

路線沿線の自治体はもちろん、路線沿線を超える広域的な公共交通ネットワークにおいても重要な役割を担っているものの、沿線自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であり、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要があります。

系統名	起点	終点	事業許可区分	運行態様	実施主体	補助事業
ふれんどバス①	吉良高校	碧南駅	4条乗合	路線定期運行	運行事業者	幹線補助
ふれんどバス②	吉良高校	碧南高校	4条乗合	路線定期運行	運行事業者	幹線補助

3) 基本目標と目標指標

(1) 基本目標

基本目標1

市内の移動を支える公共交通の利用環境を改善します

- ・市内の生活移動を支える地域内交流交通の利便性向上につながる施策を実施し、利用者を増加させます。
- ・くるくるバスについては、市内の地域内交流交通における路線として位置づけ、サービス水準を維持するとともに、利用特性に合った見直しとして、商業施設などへのバスの乗り入れなどのコース変更を実施し、利便性の向上を図ります。
- ・名鉄電車やふれんどバスについては、広域的な移動を担う路線と位置付け、利用ニーズに対応した駅前広場や駐輪場の整備などを通じて、乗継ぎ環境の改善に向け、調査・研究を行います。
- ・タクシーについては、上記にて賄えない移動を支える個別移動手段として位置付け、事業者と連携し、事業運営の維持及び利便性の向上につながる施策を検討します。
- ・複合的な公共交通の利用を促進するため、Google Maps 等を活用した検索方法の周知を進め、鉄道やバスのルートや時刻表だけでなく、タクシーのりばなどが掲載された見やすくわかりやすい総合交通マップを作成し、情報の提供を充実させます。
- ・外国人にも利用しやすい公共交通とするため、多言語に対応した情報発信の取組を進めます。
- ・地域内交流交通について、民間事業者と協力・連携し、活性化を検討します。

基本目標2

関係者が連携・協働し、みんなが元気になる取組みを展開します

- ・すべての市民が公共交通を主体として支える意識や愛着を醸成する取組みを実施するとともに、公共交通の活性化に努めます。
- ・公共交通を利用した外出につながる取組みを実施し、公共交通の利用促進に努めます。
- ・利用者ニーズに対応した効率的な運行に向け、事業者や地域と連携し利用促進を図ります。
- ・環境に配慮した公共交通のあり方を検討します。

基本目標3

人の流れに対応した広域公共交通ネットワークを維持・活性化します

- ・名鉄三河線については、南北方向、ふれんどバスについては東西方向の広域的な移動を担う路線であり、両路線を本市の幹線公共交通として位置付けるとともに、市内の公共交通や周辺市と連携しながら路線の維持・活性化を図ります。
- ・ふれんどバスの活性化のため、市内区間における利便性向上などを検討します。

(2) 目標指標

計画の進捗状況や、基本目標の達成度を評価するため、本計画では以下の通りの目標指標を定めます。

	目標指標	現況値 [R4]	目標値 [R10]	データ取得方法
基本 目標 1	①地域内交流路線の利用者数	94,664 人/年	120,000 人/年	運行データ
	②地域内交流路線「商業施設」バス停の利用者数	23.7 人/日	30 人/日	乗降調査 (毎年8月実施)
基本 目標 2	③利用者1人あたりの公費補助額 (ふれんどバス)	446.2 円/人	400 円/人	碧南市、 事業者データ
	④関係者間で連携・協働して 実施した利用促進事業の件数	—	3 件/年	碧南市公共交通 活性化協議会
基本 目標 3	⑤名鉄三河線の利用者数 (市内4駅)	4,185,118 人/年	4,770,000 人/年	運行データ
	⑥ふれんどバスの利用者数	266,719 人/年	300,000 人/年	運行データ
	⑦「ふれんどバスが走っていること」 の認知度	58.7%	67%	市民アンケート

【現況値・目標値の算出根拠】

- ①・⑤・⑥の目標値は、新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度と概ね同等の利用者数としています。
 - ・名鉄三河線……4,778,528 人（平成31年4月～令和2年3月）
 - ・ふれんどバス…304,706 人（平成30年10月～令和元年9月）
 - ・くるくるバス…121,154 人（平成31年4月～令和2年3月）
- ②の「商業施設」バス停利用者数は、令和4年度実施の市民アンケート調査において、普段の買物目的の外出先として、各地域の上位に挙げられた8施設の最寄りバス停を抽出し、毎年8月に実施する乗降調査の数値から利用者数（乗車人数・降車人数）を算出しています。目標値は①が約3割増であることから、3割増加を目標値としています。

<最寄りバス停>

オレンジコース・パープルコース…音羽町、中山町、鶴見町

みどりコース・あおコース…大浜陣屋広場西、霞浦神社、保健センター、旭交番東、久沓町
- ③については国・県・市補助額を公費負担額とし、公費負担額を利用者で除すことで算出しており、利用者数の増加（目標値⑥）を加味して設定しています。
- ④は市の公共交通担当課と連携して実施した利用促進事業についてカウントします。
- ⑦は令和4年度実施の市民アンケート調査において認知度を調査しており、3人に2人以上の認知度となるよう設定しました。

5) 目標を達成するために実施する事業

この計画の目標を達成するために実施する事業について、実施するスケジュールや実施主体について整理します。

① くるくるバスの利用環境の改善	
主な内容	市内の生活移動を支えるくるくるバスについて移動の利便性を高めるため、商業施設などへ乗入れるなどのコース修正を行います。 また、安心してバスを待つことができる環境整備や運行状況を確認できるバスロケーションシステムの導入などを検討します。
主 体	碧南市・関係事業者・運行事業者

② 利用者目線の分かりやすい情報案内	
主な内容	公共交通の利用者が分かりやすく経路や乗り換えを検索できるよう、Google Maps 等を活用した検索方法を周知します。 また、総合交通マップの作成や車内放送によるバス停周辺施設の紹介をするなど、分かりやすい情報発信に取り組めます。
主 体	碧南市・運行事業者

③ タクシー運行の活性化	
主な内容	市内の個別移動手段として位置付けたタクシーについて、運転手不足などの課題に対して事業者と連携し検討します。
主 体	碧南市・運行事業者

④ 地域内交流交通を補完する交通手段の検討	
主な内容	民間事業者と協力・連携し、地域内交流交通を活性化する方法を検討します。
主 体	碧南市・運行事業者・関係事業者

⑤ 利用者が元気になる取組みの展開	
主な内容	<p>公共交通を利用した外出機会の増加・創出に向けて、ハイキング・スタンプラリーイベントの実施や、観光モデルコースの作成、市内イベントと合わせた利用促進策の実施などに取組みます。</p> <p>また、商業施設と連携した公共交通の利用促進策について、実施に向けた協議・調整を行います。</p>
主 体	碧南市・運行事業者・関係事業者・地域・市民

⑥ 公共交通が元気になる取組みの展開	
主な内容	<p>市民や地域の公共交通に対する関心・愛着を醸成するために乗り方教室の実施等に加え、公共交通を地域で支える取組みとしてバス停のネーミングライツや、バス車体広告等を実施・継続します。</p> <p>また、バス等の車両更新の際には、環境に配慮した車両の導入を推進します。</p>
主 体	碧南市・運行事業者・地域・市民

⑦ 名鉄三河線の維持・活性化	
主な内容	名鉄三河線については公共交通軸に位置付け、南北方向の広域的な移動需要に対応する運行サービスの提供を維持します。 また、市内各駅周辺のパーク&ライド（※1）やサイクル&ライド（※2）を促進する取組みを行います。
主 体	運行事業者・碧南市

※1 パーク&ライド…自動車で駅やバス停に行き、駅やバス停付近に設置された駐車場に駐車をして、公共交通機関に乗り換えて目的地に向かう一連のシステム。

※2 サイクル&ライド…自転車で駅やバス停に行き、駅やバス停付近に設置された駐輪場に駐輪をして、公共交通機関に乗り換えて目的地に向かう一連のシステム。

⑧ ふれんどバスの維持・活性化	
主な内容	ふれんどバスについては地域間幹線として位置付け、地域公共交通確保維持事業（※）を活用することにより、西尾市方面へ市域を超えた移動需要に対応する運行サービスの提供を確保・維持します。 また、利便性の維持・向上を図るため、市内高校での定期券販売を継続するとともに、バス停の増移設などを検討します。
主 体	運行事業者・碧南市・西尾市・愛知県・国・高校

※ 地域公共交通確保維持事業…国土交通省による、地域特性や実情に応じた最適な生活交通ネットワークを確保・維持するために、地域間交通ネットワークを形成する、地域間幹線システムの運行についての支援。

(別紙) 中部運輸局二次評価結果 令和5年3月10日付け中運交企第151号通知

自治体・協議会名	碧南市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業	調査事業(計画策定)

二次評価結果

評価できる取組

無料で運行している福祉巡回バスを高齢者や子育て世代など多様な主体がする生活交通として構築し、地域公共交通計画の策定することに向けて検討を始めたことが確認できました。

期待する取組

地域公共交通計画の策定にあたって、各調査結果やヒヤリング結果をもとに丁寧に課題を分析し、市民、利用者、交通事業者との連携する体制の構築に取り組まれるよう期待します。

・近い将来くるくるバスの利用者層になる方々への働きかけ、GTFIS・ルート検索などの一般的な公共交通の利用者層に向けたソフト計画、都市計画等まちづくりとの連携にも目を向けて計画策定を検討されることを強く期待します。

・今後、路線の見直しの時期になった場合は、利用者や住民から課題やニーズを聞き取り、利用目的や利用したい施設をしっかりと把握した上で見直しの検討を進められることを期待します。